

## 個別共同研究 歴史民俗資料と デジタルファブリケーションの可能性の研究

期間：2019年～

【所員】 関口博巨 昆 政明 泉水英計

【経営学部】 道用大介

### 常民研と新しいモノづくり運動の出会い

関口 博巨

#### 本研究のはじまり

「歴史民俗資料とデジタルファブリケーションの可能性の研究」は、神奈川大学湘南ひらつかキャンパス「ファブラボ平塚」（代表：道用大介氏）の協力のもと、2019年度に立ち上げた共同研究であり、歴史民俗資料の現物ないし実測図面からのレプリカ作成、実物資料の3Dデータ化などを、キャンパス内において自前で作成する方法を模索しようとするものである。

#### ファブラボとは

FabLab（ファブラボ）とは、デジタルファブリケーション（3Dプリンターやレーザー加工機など、PC制御のデジタル工作機械を活用したモノづくり）を中心とした市民工場の国際的ネットワークのことである。個人による自由なモノづくりの可能性を拡げ、「自分たちの使うものを、使う人自身がつくる文化」の醸成を目指している。

ファブラボの推奨機材には、レーザーカッター、CNCルーター、ミリングマシン、ペーパー／ビニールカッター、3Dプリンター、各種ハンドツール・電子工作ツールなどがある（FabLab Japan Network “What’s FabLab?”. FabLab Japan. <http://fablabjapan.org/whatsfablab/>〈閲覧日：2021年8月30日〉）。



写真1 ファブラボみなとみらいの作業風景（2021年度）

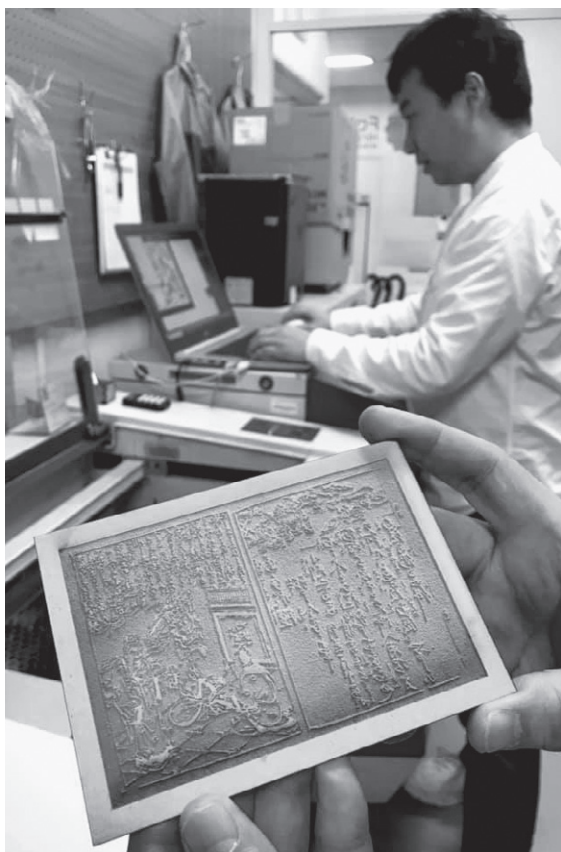


写真2 ミニチュア版木の試作（ファブラボ平塚）

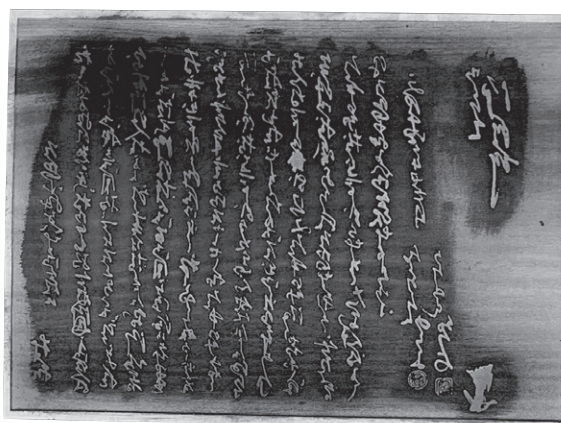
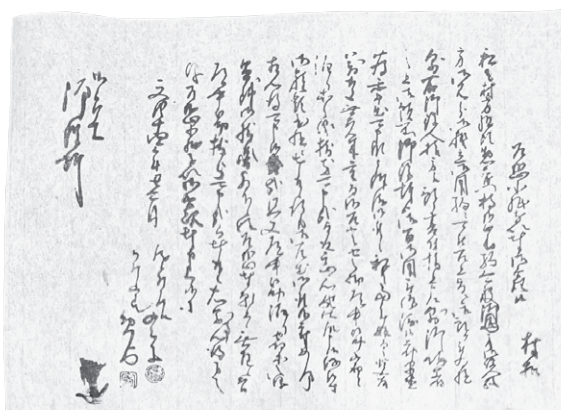


写真3 疑似文書の試作（常民研）

### 共同研究の中間報告

2019年度は、2020年3月に予定されていた古文書修復実習の開催にむけて、古文書を原版とする修理練習用の疑似文書の製作に着手した。ところが、ちょうどそのタイミングで新型コロナウイルス感染症が拡大し、2020年度にいたるまで、本共同研究にかかわる活動は実質的に停止を余儀なくされた。

2019年7月に開催した研究会（7名参加）では、古文書などの文献資料だけでなく、民具資料の研究・活用とデジタルファブリケーションとの協同についても話し合った。民具資料とデジタルファブリケーションは、文献資料よりも、むしろ高い親和性を有していることは明らかである。今後は、コロナ禍の一定の収束を待って、さまざまな可能性を追究してゆく必要がある。



写真4 ファブラボみなとみらい

### 今後の展望

2021年度、ファブラボ平塚の機能は、みなとみらいキャンパス1階の「ファブラボみなとみらい」へ移転することとなった。本研究所は伝統的なモノを資料とすることが多いが、今後は、最先端のモノづくりを追究するファブラボとの連携をさらにはかり、研究はもとより、博物館の展示や歴史教育の新しい可能性を模索してゆきたい。